

(対象事業：先進的な展示・教育普及手法の開発等の事業)

**事業名：**学校における地域総合学習支援事業

**事業者名：**熊本県立美術館

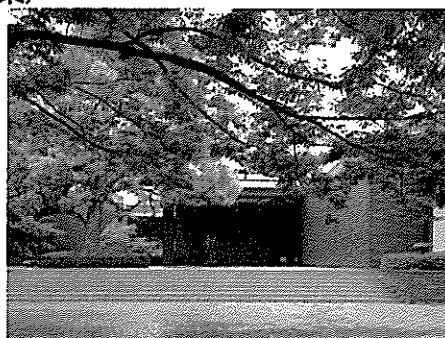
**連携事業館名：**坂本善三美術館、田中憲一ギャラリー、肥後藍御船工房

**住所：**熊本市二の丸2番

**TEL：**096-352-211

**FAX：**096-326-1512

**HPアドレス：**<http://www.museum.pref.kumamoto.jp>



### ①施設概要

熊本県立美術館は、国の特別史跡である熊本城二の丸の一角に位置し、古代から現代まで網羅する総合美術館として昭和51年に開館した。考古、絵画、版画、彫刻、工芸、書蹟などが収蔵され、企画・常設展、共催展などを開催している。また、実技講座やミュージアムセミナー、子ども美術館などの教育普及活動にも力を入れている。

### ②事業の意図目的

学校における総合的な学習等との関連を図りながら、地域の文化財、人材を教育の題材として取り込めるように、美術館が支援する。現在、各学校で総合的な学習として地域についての調べ学習などが取り組まれているが、文化財や地域の美術作家等の情報を持つ美術館が、直接的にまた間接的に地域の学校計画に沿って、教育の支援をする実験的取り組みである。

### ③事業概要

#### (1) 「地域文化財の紹介」

- ・地域の文化財の紹介。(小川町「蒙古襲来絵詞」) 関連資料の持ち込み展示。

#### (2) 「作家・作品派遣」

地域出身や地域に住む作家や作品を紹介することで、美術に関する関心を高めるとともに地域に対する誇りにつなげる。

- ・作家(宮崎静夫、坂本善三、浜田知明、田中憲一、福永幸夫、秀島由己男)の派遣
- ・作品の持ち込み展示。

### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 授業指導案

作成した報告書等

冊子 (授業記録集「御船小学校で展覧会を開こう!」)

その他 (ホームページ子ども用教材コンテンツ)

### ⑤参加者状況

参加者人数 延べ171人

内 訳

- ・小川町立海東小学校 6年生28人
- ・小国町立下城小学校 4, 5, 6年生21人
- ・熊本県立南関高等学校 美術・工芸コース2年生18人
- ・御船町立御船小学校 5年生65人 保護者等39人

## (1) 事業の実施状況について

【地域文化財の紹介】（関連資料の持ち込み）

### ○ 蒙古襲来絵詞を授業する～鎌倉武士の願い～（小川町立海東小学校6年生）

平成16年10月26日・11月2日実施

蒙古襲来絵詞は、熊本の御家人であった竹崎季長が、蒙古襲来と自らのかわりを絵と詞書きとでつづった絵巻である。この絵巻の中には、彼が何を願って戦いに参戦し、どのようにして戦ったか、そして、どのようにして恩賞を手に入れたかなど、彼の思いや行動が生き生きと描かれている。

授業を实践した海東小学校のある熊本県小川町海東校区は、季長が恩賞として与えられた地であり、校区内には、季長が出家した塔福寺や季長の墓所がある。

今回、海東小学校の6年生に、蒙古襲来絵詞を通して、郷土にゆかりのある文化財にたいする関心を高めてもらうことをねらいにして、学級担任と美術館職員が協力して授業を展開した。

#### ・授業内容・1日目（1時間取り扱い）

蒙古襲来絵詞の絵巻づくりに取り組んだ。美術館から持ち込んだ絵巻のコピーをグループごとに繋げて、上下2巻の絵巻を完成させた。絵巻をつくることにより、蒙古襲来絵詞のストーリーをとらえることができた。絵巻の中に海東の地名が登場すると子どもの絵巻に対する興味関心が一気に高まっていった。

#### ・授業内容・2日目（2時間取り扱い）

美術館より、蒙古軍船と日本軍船の35分の1模型を持ち込み、子どもたちに観察させた。子どもは、その大きさの違いに驚くとともに、絵巻に描かれている場面をより深く理解することができた。授業の最後に蒙古襲来絵詞の最後の部分を取り上げ、竹崎季長のおもいについて考えさせた。学習の中で、子どもたちは、季長のさまざまな人々への感謝の気持ち、自らの子孫への願いなどについて深く考えることができた。

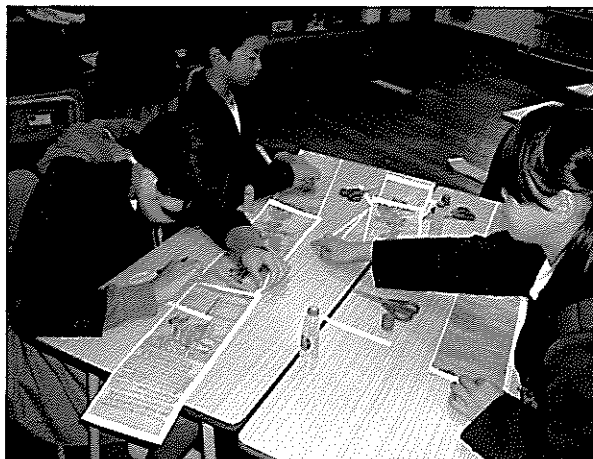
#### ・授業におけるインターネットの活用

今回、蒙古襲来絵詞の大矢野家本の所蔵家のご協力を得て、インターネット上で閲覧可能な蒙古襲来絵詞のコンテンツを作成した。通常、絵巻の形式上、長い絵巻の一場面の閲覧しかできないところをマウスの操作によって、あたかも絵巻を順にみているように閲覧できる方法を工夫した。また、授業の内容についても公開できるようなコンテンツを作成することができた。

#### 【作家・作品派遣】

### ○ 宮崎静夫を読む～絵に込められた郷土作家のおもい～（小国町立下城小学校4・5・6年生）平成16年11月4日実施

ここで取り上げた画家・宮崎静夫は、熊本県小国町下城で生まれた。満蒙開拓青少年義勇軍の一員として満州にわたり、そこで苛酷なシベリア抑留を経験する。復員後、熊本において自分の姿を投影した「ドラム缶シリーズ」やシベリアでの体験をテーマにした「死者のためにシリーズ」を描



絵巻をつくる



船の模型をみる

いている。

今回、授業する熊本県小国町立下城小学校は、宮崎氏の母校であり、校内には、宮崎氏の《ドラム缶 (A) 》が所蔵、展示してある。下城小学校の児童は、日頃から宮崎氏の作品にふれている。

そのような中、改めて日頃見ている作品を見つめ直し、郷土の作家のおもいにふれる授業を展開した。授業には、作家本人にも参加いただき、自ら作品に対する思いを語ってもらった。

#### ・授業内容 (2時間取り扱い)

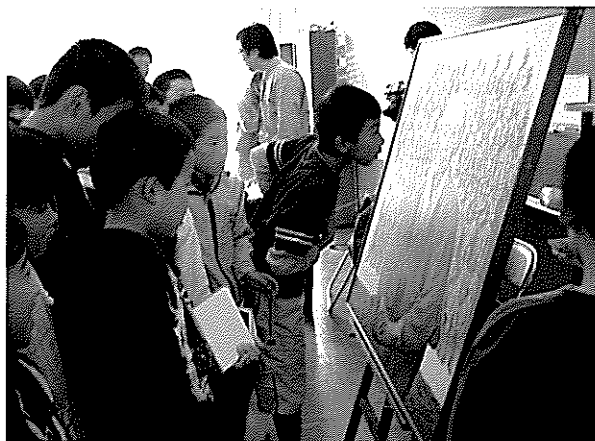
まず最初に担任と美術館職員で下城小学校に展示したある《ドラム缶 (A) 》の図版をみせた。子どもは、日頃見慣れた作品にいろいろな感想を發表することができた。

古く汚れたドラム缶の絵に作家はどうしてこんな絵を描いたのか不思議に思っている子どもたちが多く見られた。

次に宮崎氏の他の作品「死者のためにシリーズ」《聲》の本物の作品を美術館から教室に持ち込んだ。

写實的に描かれた老婆のすがたの迫力に子どもたちは、しばらく絵に見入る姿が見られた。

作品を目の前で鑑賞する子どもたち



この絵をみた子どもたちは、戦争で子どもを亡くした母親の心情をよく読みとり、ワークシートに記入、發表することができた。

作品の鑑賞後、教室後で子どもの様子を黙ってみておられた宮崎氏を紹介した。子どもは、突然の作家ご本人の登場に驚き、歓声があがった。

宮崎氏は、自らの子どもの頃の学校の様子から、シベリアでの経験、熊本に戻ってから絵描きになろうと決心したことなどを子どもにわかりやすくお話ししていただいた。作品についても「この古ぼけたドラム缶は、わたし自身なのです。わたしは、ドラム缶の姿をかりて自分自身の姿を表現しようと思ったんです。」「《聲》というこの作品は、みなさんが授業に發表したとおり、わたしが経験した戦争でなくなった仲間をなぐさめ、平和を願って描きました。」と説明していただいた。

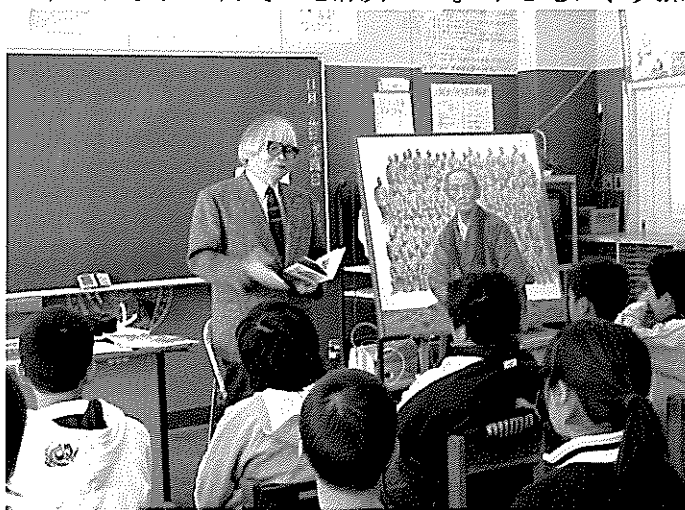
作家本人の言葉は、子どもたちの心に響いていた。

#### ・他館との連携～授業協力と展覧会との連携～

今回の授業においては、小国町立坂本善三美術館の協力を得た。作家の日程調整や、同時期に開催された小国美術フェスティバルの関連事業として位置づけていただいた。小国美術フェスティバルでは、坂本善三美術館と連携の上、本授業で取り上げた作家を含めて、熊本県立美術館の収蔵作品を小国町で展示し、ギャラリートークを実施した。

○郷土の作家「秀島由己男」～わたしと版画作品～ (熊本県立南関高等学校美術・工芸コース2年生) 11月9日実施

熊本出身の秀島由己男氏は、精微で情感のある版画作品で知られ、国内外で活躍する版画家であ



自らの作品について子どもに語りかける画家・宮崎静夫氏

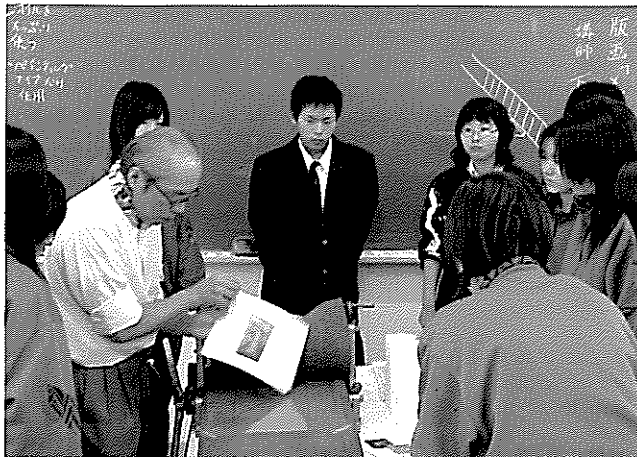
る。秀島氏は、南関高校のある南関町の隣町（三加味町）に在住である。

今回は、生徒の身近にすぐれた作家がいることを知らせ、その作品のすばらしさに触れさせることで、生徒自身の制作意欲につなげるとともに、地域に対する誇りにつながるような授業を展開した。

・授業内容・午前（3時間扱い）メゾチント体験

まず最初の授業では、版画家・秀島由己男氏の作品を紹介し、秀島氏が制作しているメゾチントという銅版画の技法を紹介、体験させた。生徒は、銅版画について初めての経験で、興味深く技法の説明を聞いていた。

説明後、自宅で描いてきた下絵をメゾチントプレートに写し、版づくりを始めた。メゾチントの場合、版全体につけられた傷の一部を削ることで白い面を作り上げる。この部分が技術的にも難しく、生徒も苦勞していたが、試し刷りを繰り返しながら彫りをすすめるように指導した。



プレス機で試し刷りをする

プレス機を通して本刷りを始めると生徒たちから歓声が上がり、自分の作品の歓声を喜ぶ姿がみられた。

・授業内容・午後（2時間扱い）特別授業 “わたしと版画作品” 講師：秀島由己男氏

2日目の授業では、版画家・秀島由己男氏に直接学校までおいでいただき、自分の作品について生徒に語りかけていただいた。

授業の前に、熊本県立美術館収蔵の秀島由己男氏の版画作品を教室に持ち込み、展示し、作品を前に秀島氏にお話しいただいた。作品を前にして、ぽつぽつと話をされている秀島氏の姿に生徒たちは、多くを語りすぎない作家のありようを肌で感じていた。生徒たちは、終始静かに話に聞き入っていた。



版画家・秀島氏の話聞く

○御船小学校で展覧会を開こう！～郷土にゆかりの作家を調べて紹介する～（御船町立御船小学校5年生）平成17年2月1日～3月18日実施

御船小学校のある熊本県御船町は、数多くの芸術家が育った町である。町内には、同町ゆかりの作家の作品が点在する。たとえば、御船小学校に隣接する御船町カルチャーセンターには、国際的な版画家・浜田知明氏のモザイク壁画、同町在住の染織家・福永幸夫氏の緞帳があり、町役場には、同町出身で独立美術協会で活躍した洋画家の田中憲一氏の陶板壁画がある。また学校周囲には、福永幸夫氏のアトリエ兼ギャラリー藍工房、田中憲一の特設ギャラリーなども存在する。

そこで、今回は、御船小学校近隣の芸術施設を取り上げたり、御船ゆかりの作家の作品を子どもに紹介することで、地域の美術文化に親しむ機会をつくることを目的に実践を展開した。子どもに地域の文化財に関心を持ってもらうために、美術館は、学校と協力しながら、美術館のもつさまざまな情報や作品を子どもたちにわかりやすく提供できるように心がけた。

・授業内容（10時間扱い）

学習の目的を「地域の美術を調べて、学校や地域にみんなに知らせよう」とした。

子どもたちは、ほぼ2ヶ月の学習期間を熱心に取り組み、学習のまとめとして、御船ゆかりの美術を紹介する展覧会を学校で開催し、校内や地域内の方々のたくさんの来場を得ることができた。その展覧会には、美術館所蔵作品も持ち込み展示することができた。

・授業1次 調査活動（4時間扱い）

小学校周辺の施設等を見学し、郷土ゆかりの作家や作品を調査する活動を行った。子どもは、グループごとに調査場所、調査項目を決め、取材活動を熱心に行ってくれた。染織家・福永幸夫氏には、教室で藍染めの授業を行っていただくとともに、工房で、子どもに実際に藍染めを体験させていただいた。天然素材の藍のすばらしさを体感した子どもたちは、その体験を詳しくまとめてくれた。

・授業2次 調査結果をまとめる（4時間扱い）

子どもたちの取材活動でさまざまな情報が集められた。それらを、展覧会を実施するために、「ポスター・チラシをつくる」「御船町ゆかりの作家のことをパネルで紹介する」「作品の説明のパネルをつくる」「みんなに知らせる新聞をつくる」などグループごとにまとめていった。

・授業3次 展覧会の準備（2時間扱い）

子どもが作成したパネルや、体験学習で制作した藍染めの作品などとあわせて、美術館収蔵作品を展示することができた。展覧会当日は、地域の方や保護者も多数来校いただき、子どもの手づくり展覧会を熱心に鑑賞いただくことができた。

（2）地域との連携について

○ 小国町

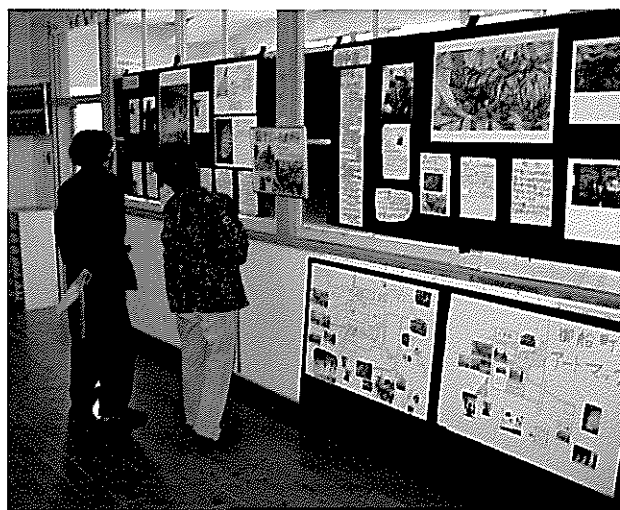
下城小学校においては、画家・宮崎静夫氏が来校、授業に参加いただいた。また、小国町で毎年開催される「小国美術フェスティバル」において、小国町立坂本善三美術館と熊本県立美術館が連携して、下城小学校の授業に関連したギャラリートークを実施した。

○ 南関町

南関高等学校においては、地域在住の版画家・秀島由己男氏を特別講師に招いての授業を展開した。



藍染めの体験



子どもの手づくり展覧会会場風景